

2228

繪
小
夜
嵐
物
語
一

小夜嵐卷之第一

才一 閻魔王宮之事

才二 十王之由来并入表八苦之事

才三 存覚院詩作の本

才四 保照梵志の本

才五 本佛之後續の本

才一 一人まじりきう

天下たつろろ御代ははほまそく二世あそ乃相續も

おまそれまじりたどねるふ南瞻部列大田本

國人皇百六代のみごと。後奈の院乃御宇。天久光

年乃乃との亥のやうい。大聖釋迦牟尼如来天竺

尸那城跋提河乃入滅。二子入百年。忘ねおまら。

されむ天と人あちやふおまら。一六三子大子

世界。生やうい。なつらあ。情北情乃茶本

も。佛恩報謝。い。は。年。忘。の。無。世。預。旅

あ。は。か。な。り。の。無。世。預。旅

北。獄。乃。り。の。閻。魔。王。し。は。年。忘。の。追。音。の。あ

臨の罪人と比擬し出し。聖樂此日成中ふら
 二月八日ち同大二十四まで。教後十入日る奇責とわ
 悉くいふれど。慈悲の心く悲しあり。源平女家れ
 けいの舎命をうぐれひの月乃若患のなり。けり刻
 此口惜き成くわらひいざやを急と教えんぞら
 梅軍兵と集らう中よ。教向ともを量乃鬼う防
 きくひ合戦しとよ。三十餘夜よおらぶとつとつあ
 みるやうい芳て比擬と折破れいし物成或人獲
 生してくつかときげも。さふや思ひわたるる事た
 らんく拾まへ入十候よ書もやうゆりまゝ。教後叙行の
 羽衣のうらよ。秋来ぬと目おいさやうも思つてひえ
 風乃善あぞかろられぬつとあるところを紫と煙
 として双紙の名成小ねわしやばまゆり。斥腹い
 きくたうした事ぶごなれも。二又三四の書れはりて
 そびあもなぬとわ。その相成終よわらうとそれど
 羽よみのつらさひが成地がまじれ事乃とゆかりん
 かり。此物笑乃をひこしなれをさしめ。うらなれ事た
 じりらけあせとこころれくす付ゆり
 柳商魔王文とす。人間乃比ら入百更。後那と
 るごと。全佛世界預詠出の中央うわつ。中し辰よ
 了ふし尚て。叙の心もせ寅り南く。八丈比獄のり
 卯辰れも小死出山八若堂わの辰已も成美れ向へ

臨の罪人と比擬し出し。聖樂此日成中ふら
 二月八日ち同大二十四まで。教後十入日る奇責とわ
 悉くいふれど。慈悲の心く悲しあり。源平女家れ
 けいの舎命をうぐれひの月乃若患のなり。けり刻
 此口惜き成くわらひいざやを急と教えんぞら
 梅軍兵と集らう中よ。教向ともを量乃鬼う防
 きくひ合戦しとよ。三十餘夜よおらぶとつとつあ
 みるやうい芳て比擬と折破れいし物成或人獲
 生してくつかときげも。さふや思ひわたるる事た
 らんく拾まへ入十候よ書もやうゆりまゝ。教後叙行の
 羽衣のうらよ。秋来ぬと目おいさやうも思つてひえ
 風乃善あぞかろられぬつとあるところを紫と煙
 として双紙の名成小ねわしやばまゆり。斥腹い
 きくたうした事ぶごなれも。二又三四の書れはりて
 そびあもなぬとわ。その相成終よわらうとそれど
 羽よみのつらさひが成地がまじれ事乃とゆかりん
 かり。此物笑乃をひこしなれをさしめ。うらなれ事た
 じりらけあせとこころれくす付ゆり
 柳商魔王文とす。人間乃比ら入百更。後那と
 るごと。全佛世界預詠出の中央うわつ。中し辰よ
 了ふし尚て。叙の心もせ寅り南く。八丈比獄のり
 卯辰れも小死出山八若堂わの辰已も成美れ向へ



蘇頭川とらうくながむすま々無邊大海蒼海
 よけく減れしるち、とまふふ山たが谷とるごと
 たれ方よわしうごは右乃まよいそりい山前と郡
 鐵蓋しひて平くふ陸地なり。凡十萬八千里ハ
 乃氏十王の領有らんまふふに弘く廣世界あり。
 更邊限もなき。數多れ國々小々一億九萬九千六百
 餘眷屬もほく。ま所くと大正統王ハ領地として
 文統とあたる所。まふふは阿摩大正ハ十王の中の
 惣王とくゆし、まふふは世界ハ中央より帝都と
 あり。預統王乃ありトむつがめをきて、月は
 帝都と二百八十餘里あり。里居と百三十里
 累々と垣籠七重の城とほり。とんきんハ石代物とた
 くと三十丈よけこし。四面乃圍宮侯のやぐら。八のよ
 くらごの八橋門あり。文敷ハ敷と六十四敷塔舎と敷と
 あり。廻橋園中あり。まふふ敷やつり。まふふ橋とせり。ま
 ふふ事、まふふは雲代帯。日月もふんたむらり。まふふ
 天等園とまふふなり。余室乃邊門ハ畔り。まふふ
 庭と籠中あり。まふふやして。地ふと金ハ砂と由
 こらまふふ。銀屑とまふふり。純金ハたふまふふ
 瑪瑙乃垣欄のゆさげ。水晶ハ戸ひら。瑠璃ハ
 ちやちや。琥珀乃うけまふふ。圓ハ瓦と又まふふ。まふふ
 文敷敷をまふふ。橋園書と、まふふあり。或時

大王も教よ出法なりし一ふはく改月中旬ハ
 まかへハち。遠山なり。乃これ言、かよみれ、くしり凡
 如きく。乃瑞乃梅ハたあひの室ハ寫ハ乃のな
 教うづ。一に初梅。夫本もあふくおぢりり。凡
 松陰。う筑山。乃。落就。け。の音と。ま。つ。と
 一。て。静。なり。清流。の。こ。た。く。う。か。一。横。を。り
 一。か。材。り。一。珠。代。連。貫。人。ま。の。之。池。あり。う。あ
 竜。祈。と。七。宝。と。か。ぢ。り。錦。と。し。り。学。根。よ。ん
 一。波。乃。流。空。る。へ。あ。を。へ。か。う。お。わ。て。北。嶽。乃。集
 主。文。も。さ。ん。が。ふ。四。の。は。ま。め。と。う。一。室。も。也。笑。り
 ぬ。ぐ。れ。白。ひ。び。り。わ。も。ゆ。り。に。夕。何。よ。ほ。く。ん。也。と。何

厚。の。し。卒。妙。乃。友。よ。さ。そ。も。れ。て。芦。邊。下。居。る。じ
 時。や。も。詞。乃。露。ハ。う。つ。か。何。の。う。う。と。ぬ。ま。ハ。あ。の
 又。み。ぢ。ら。ふ。孔。雀。舞。あ。も。へ。も。琴。琴。新。あ。う。や。ぬ
 一。と。改。大。王。か。が。め。よ。う。よ。と。ぬ。も。ん。こ。て。し。か。の。も。と。思。い
 一。ん。の。ふ。ふ。ま。へ。る。と。ぢ。し。本。筆。の。櫻。格。と。せ。よ。か。び。さ
 一。め。一。た。乃。帳。と。せ。く。屋。り。は。く。ま。へ。日。や。夜。永。々。集
 一。か。め。く。く。と。響。け。り。よ。一。甲。の。に。た。ぬ。春。乃。月。雲。の。り
 一。か。乃。ふ。も。是。い。づ。大。王。は。く。く。や。ま。の。せ。た。も。ん
 一。唐。ハ。積。の。糸。波。ハ。女。陰。よ。う。の。く。初。ま。ハ。庭。梅。盛
 一。よ。う。け。月。ハ。又。鮮。露。を。り。と。つ。い。く。も。う。や。れ
 一。お。も。や。又。王。荊。公。が。何。よ。い。く。ま。久。惴。久。不。眠



月夜花影上欄干。於て大唐口試。たし月と歌
 事あり。班婕妤。入を八竅。とて恨みかし。
 昔去りて空向。おと月とて。影代地の。物成
 さぬ。を心と。や月と。清涼。不変。徳あり。少く
 月と。下の。涼。ちと。物。ひ。羽衣。の。盞。夏。消。さ。書。と
 作。心。扇。かり。ぬ。よ。音。月。花。乃。ぬ。かり。公。一。時。よ。及。向
 事。ま。な。り。て。い。け。乃。け。ふ。わ。ん。ひ。ち。と。ん。て。書。殘。
 窓。梅。香。とり。て。朝。と。昔。の。松。と。涼。よ。書。柳。か。ま。び。も。
 竹。の。園。生。ひ。か。ふ。い。多。あ。い。ま。は。り。四。方。を。ひ。や。し。ほ
 乃。け。と。空。よ。花。と。人。終。て。破。扇。よ。二十。又。陰。と。和
 月。は。彈。又。日。の。の。和。秋。新。古。今。集。と。や。ん。子

小笠原...

ちる。唐土よの約とけらり。日本おはれお教と依
 ど心とやんやん。只しは御製馬黄うのふく之國
 空双をわいごんじ。感よ経肝は銘し。多難
 是くよてまけり。推系さうそれぐ。色相号氏
 一首はかきりり。ととと。大五中石馬黄が又
 例乃とけのさしひさぐ。せきんと勅定はまは
 馬黄をくわもろり。えんじ近比乃も忽ふい。まふ
 ちぐめ思事し。おれど。何のゆもまく。色かぐ
 いはまの月乃さあど。ゆくもて。君がまのねは。祓お
 三馬黄と。トよけまは。大五の。あまのふ。ふそれい
 と。せある。らん。れに。英菓。トよ。わと。く。の。て。ま。い
 んよ。わ。づ。ら。ま。も。夜。さ。は。わ。な。れ。ま。ま。れ。く。馬
 黄。お。勅。定。わ。ら。し。御。急。を。極。り。の。小。神。下
 され。あり。ひ。の。わ。り。は。合。ち。り。御。よ。ま。難。の。先。と。ま。く
 大。五。教。た。の。氣。色。く。馬。黄。と。法。前。より。御。よ
 物。成。修。し。さ。く。せ。ん。若。天。坐。舍。衛。ま。よ。釋。尊。の。出
 世。の。時。分。九。億。八。萬。生。の。り。三。億。の。萬。生。の。直。佛。よ
 邊。を。も。是。と。思。佛。と。ま。三。億。の。萬。生。を。仏。の。そ。よ
 お。終。す。く。ま。ま。と。ま。これ。と。法。と。ま。か。り。三。億。の
 萬。生。の。仏。の。の。れ。と。ま。さ。く。ま。是。を。宿。習。の。持。た
 かり。九。の。子。と。ま。ま。と。ま。つ。り。仏。を。母。よ。の。り。と。釋
 尊。と。お。な。り。ま。の。ま。か。り。預。鉢。の。の。の。と。

八不居者九一
 七



ようり。飛人乃紅明と云ふいきがむわさるるを
 神仏意れりしごと。まよばよ及とらよあはるる
 かやれまらふりも。空おそらりしをれりし何
 ややひてや後後黄がとねと例乃い神つり
 色つら。神妙りしはかきふきごとくにおりて乃
 まぬひく。まか多くさぬく。水物終乃ららに。ま
 の取やとらふらつたれを。取も物けゆくま。後黄
 よい。と取下すれ。大まはるる。おとふ。つ。や物お
 後黄らば乃。まか。さ。落後神との。ま
 ちやよゆり。焼よ。む。い。あ。云。け。る。今。取。大。ま。れ
 い。け。ま。あ。り。ぬ。御。機。娘。も。あ。ま。り。由。り。か。乃。か

かり。大演盜大ぬと人どののわつ移くは了ばり
 色をそんくはむくもを教限之がく死くは
 さまふあつぐさぐさして安樂へゆり一人もあつ
 これ十五のゆりかりし又天よよむす何れをど
 け果報いづれにまらかなむれづも天人乃大衰
 しつづあ。スレをもとくけり。一ふれ改て花う
 忽よ葉。二ふれ天夜塵垢よ著。三よ八腰下も
 汗布。四よぬの目敷胸。五よ本居てぬり。六よ
 大相現むけ付天女眷属皆患遠離して是
 と棄す。第七よ。林間よ偃卧して悲泣を
 歎曰。花の天女を八祇をり憐愍しつゆそ

一具よ。二よ。三よ。四よ。五よ。六よ。七よ。八よ。九よ。十よ。十一よ。十二よ。十三よ。十四よ。十五よ。十六よ。十七よ。十八よ。十九よ。二十よ。二十一よ。二十二よ。二十三よ。二十四よ。二十五よ。二十六よ。二十七よ。二十八よ。二十九よ。三十よ。三十一よ。三十二よ。三十三よ。三十四よ。三十五よ。三十六よ。三十七よ。三十八よ。三十九よ。四十よ。四十一よ。四十二よ。四十三よ。四十四よ。四十五よ。四十六よ。四十七よ。四十八よ。四十九よ。五十よ。五十一よ。五十二よ。五十三よ。五十四よ。五十五よ。五十六よ。五十七よ。五十八よ。五十九よ。六十よ。六十一よ。六十二よ。六十三よ。六十四よ。六十五よ。六十六よ。六十七よ。六十八よ。六十九よ。七十よ。七十一よ。七十二よ。七十三よ。七十四よ。七十五よ。七十六よ。七十七よ。七十八よ。七十九よ。八十よ。八十一よ。八十二よ。八十三よ。八十四よ。八十五よ。八十六よ。八十七よ。八十八よ。八十九よ。九十よ。九十一よ。九十二よ。九十三よ。九十四よ。九十五よ。九十六よ。九十七よ。九十八よ。九十九よ。百よ。

此病よちうまゆめちをサヤシるよ月花とも
 之どしてサレ凡として紙性致懐の中
 くら居抗ともふいほぬくとも天目とも
 かりしたるつとあくとゆとも法よ友菓子
 も念せんしとけいともいもあ病ともり
 かつ不審性か何友ぞられともくとも
 針と茶とふぐと灸の
 今死わらもぞとわればさ
 今死わらもぞとわればさ
 今死わらもぞとわればさ

此病よちうまゆめちをサヤシるよ月花とも
 之どしてサレ凡として紙性致懐の中
 くら居抗ともふいほぬくとも天目とも
 かりしたるつとあくとゆとも法よ友菓子
 も念せんしとけいともいもあ病ともり
 かつ不審性か何友ぞられともくとも
 針と茶とふぐと灸の
 今死わらもぞとわればさ
 今死わらもぞとわればさ
 今死わらもぞとわればさ



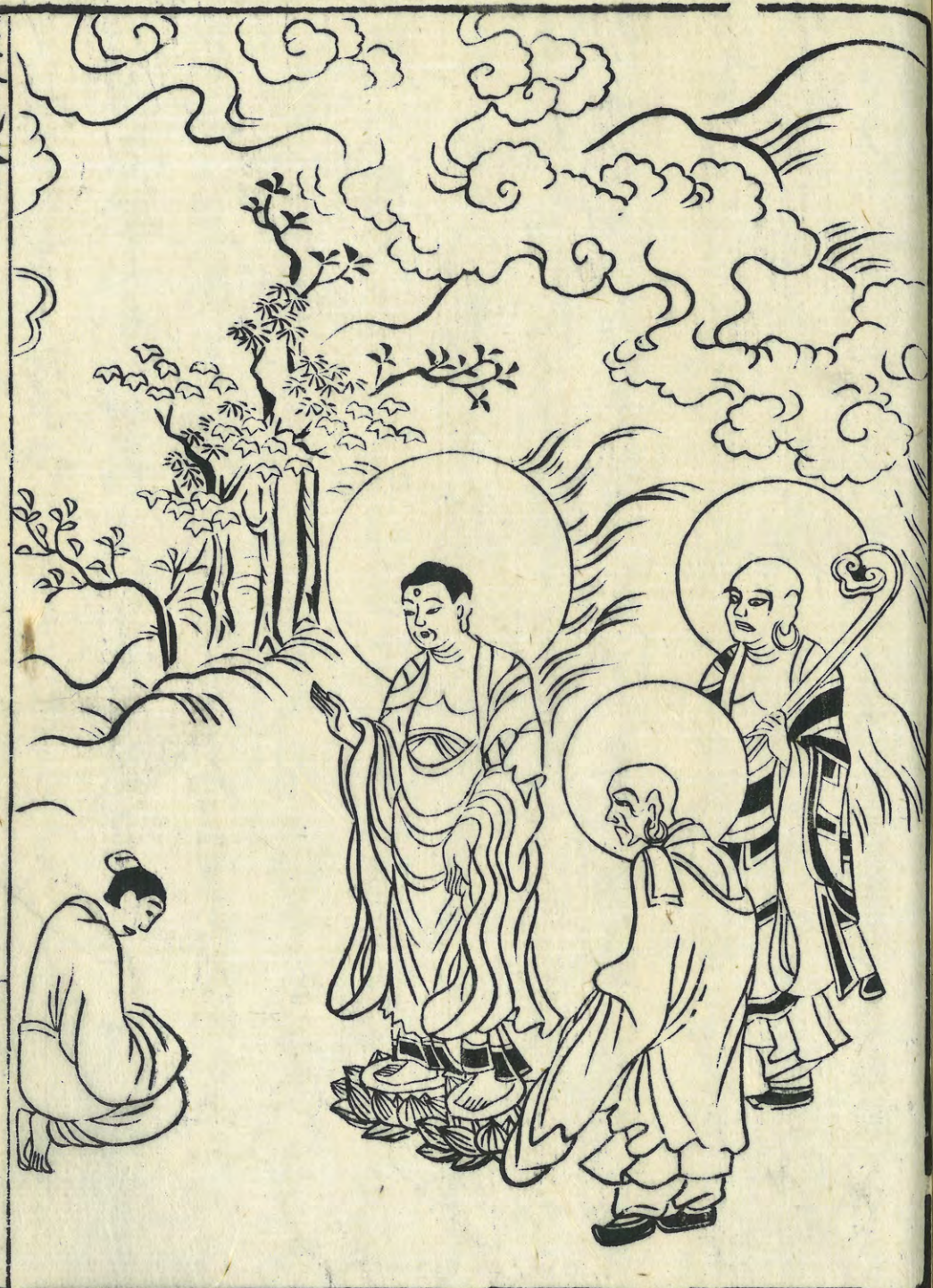
ろひもなまらば。朝夕ぐらば。くられど人とて。大振舞
まもあつど。かろげ。く。煙。本とありて。ぐらこ
てぬ。は。情。ま。ろ。く。多。く。一。位。福。福。之。門。は。な。り。唯。人
一。拓。所。よ。ろ。く。た。傳。よ。か。れ。し。り。と。て。福。貴。と。の
む。人。十。方。世。界。と。万。高。の。く。め。よ。く。勢。ご。り。の。と
い。へ。と。も。限。あ。か。く。な。ま。大。海。入。こ。む。定。ま。は
分。分。ら。く。い。く。と。骨。お。て。も。益。な。り。仕。合。り
た。し。と。ら。り。を。し。ま。法。分。あ。の。は。よ。か。な。ま
多。く。野。蕪。の。家。も。草。茂。り。原。意。の。麻。上。は。ぬ。う
五。わ。ふ。と。あ。め。し。れ。を。も。ご。も。人。す。び。し。も。色。ハ。智。み
ト。か。し。馬。や。せ。く。ハ。毛。か。く。せ。朝。野。會。載。お。も。か

ま。く。こ。か。り。日。本。ハ。神。國。カ。し。を。都。ち。り。今。ハ。神。を
月。と。し。十。月。ハ。と。美。ハ。神。と。ら。も。雲。ハ。い。や。と。あ。ま
ま。け。ハ。我。家。ハ。貧。乏。之。神。ハ。時。成。も。い。く。は。足。か。ら。元
さ。兒。ハ。い。や。あ。り。と。せ。かり。あ。よ。せ。れ。と。ぬ。ち。居。と。ま。わ
流。人。わ。ら。て。も。業。び。人。を。ご。い。ら。貧。家。ハ。つ。成。と。く
山。越。り。存。光。院。と。い。ふ。僧
貧。處。天。然。君。侍。杖。柴。馬。曾。親。自。元。孤
破。糸。塵。世。有。何。恨。旅。勒。雲。門。只。亦。無
こ。う。く。し。旅。勒。ハ。酒。雲。門。ハ。餅。只。と。茶。か。り。美。あ。よ。つ。こ
貧。苦。や。ご。う。と。さ。物。と。な。り。貧。家。ハ。世。に。奇。合。り。け。り
ハ。佛。と。し。も。皆。金。か。り。既。釈。迦。が。来。十。六。丈。ハ。金。身

と現を伊ふ。或ぬちをさる
 十悪を貪りおこしおぼせし
 きを分限者ぞ仏なりとて
 世中々作の朽橋おれこそ
 涙こもはくおかりん

才四 保照梵志事

昔天竺佛在世。保照梵志といふ者。法よこして
 りんがく人なり。又婦二人の中。彼帷子たひり持
 かり。又まがよそくけし。女房ハ裸女くひよ。女房
 がよそくかかれハ男ハ裸もくし。よわらかり。又婦の
 りのいしおぼせし。つぐまの由一へりてくまれし。



法花經の要文は一者不得作梵天王二者帝釈
三者魔王四者轉輪聖王五者佛身是と入障
と入り又三法よりふと初なくして親よ志し
盤か心うたえまよ志しぐいぎしてハ子よ志し
これ女の三法なり仏か世のいまん抑釈迦如来と
申すそとすけらハ父ハ摩迦陀國のありし時子
嬾王の御孫淨飯大王ハを子なり御母ハ天竺者
覺長老ハの息女摩那支人の胎に入り宿淨誕生
周乃曰代昭王十六年己酉の三月八日よじま
させい多し御初初とあやしくりさくよ天上天下
唯我獨尊とのるむか御名と悉達太子と

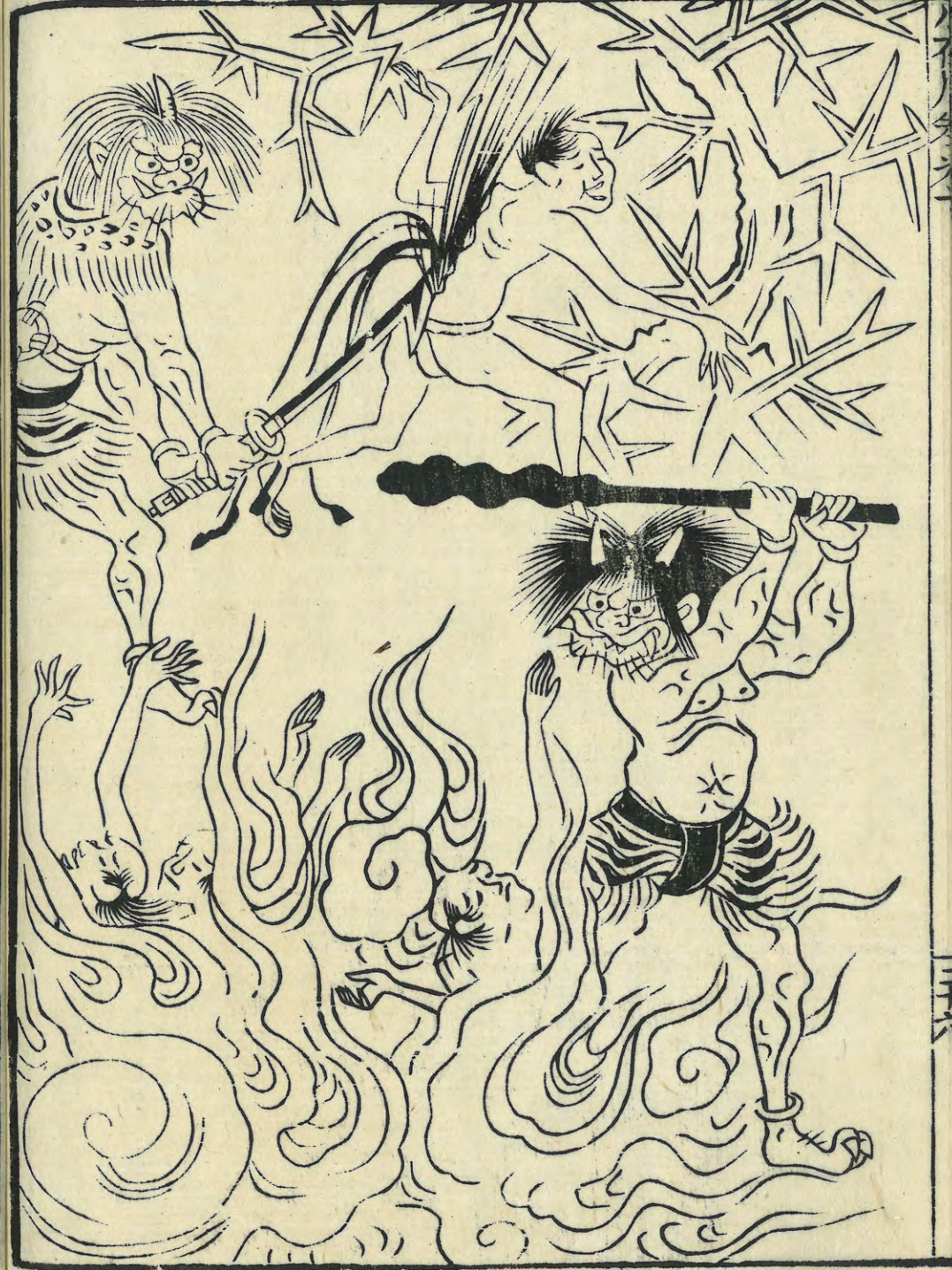
キそとけら七輩のいひゆるし有為無常と觀し
多し御發心乃ぞもとりりちふし終御願成
就して十九少くも出家を檀特しよこりり河
羅迦羅と呼しよめがの氷くもははれり
龍引若りよもいれあく成道がわいそもい
かこれはよい一佛成道觀現法界草木國土悉
皆成佛と宣しよふ三界ハ独尊是かりし御入滅
周の八代穆王五十二年三月の二十二月十日
七十九のく涅槃入鸞林般若火煙しあせあふ
眞赤の四列南閻浮提の中よ大月本といふ月を
ふとと仏生國しよははくもあがゆよ漢あり

て合二百元六北獄なりし八毫北獄は紅蓮大紅蓮と
ふまら。空同と海異らうきして下なり九北獄は
アノハ鉄城固閉て。熱鉄を北に火猛火相燃こ
して四面は充塞す。冷風とそものめく火多人さ
りく脊と焦し。冷乾乃あて求む鉄湯沸身と
弱し。泣きも泪落む。猛火眼は満るし人なり叫べ
ぞ。髪も鉄丸喉に入らゆかり。極熱叫喚はな
ま。黒繩命の患を斫刺麻棒のくさし。刀
と鋏樹のあまれを沈むく宣なまさなり。等
活北獄の罪人苛責せしむ苦痛より心の息絶
て死し。まゆとせむ成罪人は足とんく。こま

大定よ人とうねるさこゆら

天の川流乃りわしりわ

われ我も今れ何のでく。志あなしくばまかりそりと
思ふ所よ。空中よ智あわの事可還等活く。と云
誓志けしむ。さあめく。うらとんく。こま見あ。
りやよ。あまそらした。北獄とあまて。鐵鬼道よあま
ひまの。ま若も又無量なる。我子成食く。饑やと
あ。子成食はくして。我く。嗚と。命と。續らと
飲と。とれ。猛火と。成菓と。うらとんく。こま。鉄丸
と。あ。皮肉と。ま。く。こ。や。せ。う。け。炭。い。れ。ら。り
と。頭。髪。ら。う。く。ら。ん。く。喉。の。汁。乃。く。お。く。腹。と



穀糧とすべし。其毒と食屑と飲十六種の中
よ。或西国なり。其是細く。口中より突り。髪を
く。其毒。己と身と。又変て。火端と。其毒。身と
焼と。や

身入 木佛の経讀ゆま

高生界ふと。高粮高病。傍生。傍行の。偶も。天
比と。つらく。お。勢り。ご。由と。あり。上の。竜王金翅
よ。もし。下の。平康。蟻は。及。ま。と。三十。日。候。あり。と。い
る。も。禽。獸。虫。魚。は。二。以。定。と。死。る。言。海。と。志。く
ど。海。よ。と。し。魚。深。深。く。い。ま。人。の。嶺。麓。よ。起。卧。歎
と。仙。よ。お。く。人。役。と。な。く。て。か。い。大。さ。う。成。ぐ。子。を。見。よ

身入 短く長りのよ。飲ふ。翅の。紋毛。指肉の。味れ。あ
人よ。し。あ。さ。い。人よ。近。村。牛。馬。を。鉄。と。は。よ。い。あ。これ
身と。う。た。れ。鼻。と。福。ら。ま。若。と。負。腎。と。こ。う。し。
足。と。く。の。こ。と。と。ひ。と。繩。よ。け。ま。れ。け。考。と。い。な。う
ど。あ。草。乃。そ。も。と。か。ま。る。べ。三。宝。に。教。へ。し。む。こ。父
母。不。孝。の。し。く。愚。と。と。し。れ。邪。心。と。う。れ。ま。し。む。こ。被
戒。を。慙。の。人。墜。て。る。う。し。む。所。な。ら。し。後。罪。道。に
あ。ら。し。ふ。乃。水。大。海。の。下。二。万。一。子。由。旬。と。さ。く。羅。准
阿。修。羅。宮。を。その。下。二。万。一。子。由。旬。と。隔。て。毘。摩
賀。多。羅。天。を。豎。横。八。万。由。旬。に。同。と。あ。よ。の。や。と
う。べ。し。て。一。日。小。三。夜。宛。合。戦。終。事。な。り。天人。に



ありよ。悪念とあつて。隙と集む夜心。刑やとじ
 ぶ。まあ。雷の鳴とさ。蒼天への。わいも。田五。剣と。女
 報か。心か。どろり。蒼天への。わいも。田五。剣と。女
 ば。どろり。物。い。位。不。あ。り。ぞ。い。を。い。れ。も。悪。念。中。雲。霞
 の。や。う。よ。責。き。て。い。れ。よ。起。春。よ。け。ろ。身。と。わ。い
 己。背。さ。の。し。も。か。れ。ど。ろ。ろ。と。ま。ろ。く。八。子。案。く。る。し。も
 と。う。く。い。あ。り。六。道。の。苦。も。り。も。ま。い。れ。は。い。も。あ。り。あ。り
 ぶ。い。ろ。く。三。界。八。苦。元。波。れ。所。何。れ。処。あ。り。身。と。か。く。ま。ん
 と。法。慈。と。人。と。あ。り。せ。ろ。ろ。と。か。り。者。撰。津。個。分
 志。川。の。邊。よ。或。寺。其。坊。主。何。と。か。形。て。寺。へ。人。と。く。系
 ら。せ。く。が。れ。さ。い。せ。ん。が。り。と。う。て。た。ま。う。と。か。り。ひ。ま。い

まどとさるべ終よあ成りしれりて。ぬ様斗りて
 かたれを跡とみくし。かえりかんと。啼く繩よまを
 ひくしてめさる。あださる人果よゆさく。いつあ
 ごとくましくせたまさう子ぬす。とやゆひけん常れ
 横みさるく世のよおふがぬ新よまりの強く。様
 げ版さくしてごくげへにくむ。どのまを考よの
 わさよらしてこそ。何とま何ぞこと。この
 子跡よまると何故が原よ不祥く。本新よま
 るさる。れうだりさなりさ。うよせげをのみま。このふ子
 としお。あさんと。いつのく。又策あく。あさく。さ
 こゆり。けいさう。その口あく。さげ。わかりひ

かん。目成。善くして。ゆりよさる。男。我。原よ入。とさる
 け。か。と。成。と。れ。と。ね。ら。ま。れ。る。ぬ。様。と。し。や。と。し。
 し。も。成。ま。と。何。あ。か。ま。れ。る。乳。も。や。う。の。あ。い。ん。
 子。様。死。よ。し。り。し。と。ち。死。よ。し。ゆ。子。様。と。ま。よ。あ。い。ん。
 三。あ。鳴。く。様。の。女。の。あ。い。ん。と。ふ。た。り。あ。い。ん。と。ふ。
 け。な。ず。く。よ。わ。あ。さ。り。と。し。か。ん。く。け。む。女。房。が。あ。
 三。さ。く。ゆ。さ。と。か。い。ゆ。や。巴。が。あ。ま。ふ。今。と。し。こ。し。先。と。
 一。あ。い。ま。け。る。ぬ。と。や。ま。ら。あ。い。ん。こ。あ。い。ひ。ま。ぐ。う。う。
 よ。あ。く。ま。と。は。い。し。る。か。あ。い。ん。わ。ま。あ。ら。う。あ。く。
 あり。あ。い。ん。と。し。ぬ。様。を。よ。女。房。と。し。先。や。ま。あ。わ。せ。鳴。
 くれ。を。男。ま。て。何。と。さ。げ。ふ。て。鳴。ぞ。ま。の。よ。け。あ。

ひまれら擡乃子ガ死とふとて何乃の御死す
 そみくれやのちらうまにてあうね母ざら成まるこ
 ろくうようつこにがけよの御やうくか何れを
 さふ成かりしを放ぐまのりこてまこころ人志けり
 と。女房がとりえ人母猿ハ逃りたるにやえん。まらと
 死に何猿乃子成ぞうの殺し。よ男とあつ
 かう捨ける。を存らざるに死さる子成ぞら
 て向ふ常ホさるこつら。浄土寺乃あけり。まら
 糸のぶくれとわりとれ死さる子猿とうけり。そ
 のら寺入り坊主乃のこころ箱にわかくそり
 廻そくふ死てこころりきよのまこと咽とく死す

てみ成煙くくたれらよ。いまらびあ死す。まら
 寺乃坊主と初。左糸のものをとれとて。何
 あられ如くつれとて。泪とが。寺乃坊主一糸
 の者ぞ。算合く。三日三夜大急佛して。まら
 こ成ぞあつひを何とあり。まら彼男のあつ
 まら成く人よむら。おははぶら。つら
 日取朝暮そ。猿乃さげす。りて三年
 あり。終る死よけり。高生とて。つら
 まら。唐胡國の信よ。吉岳と云。あ。あ
 みの一人。早知より。あ。あ。経讀。遍。或
 時様。十。足。斗。き。ら。ら。り。人。次。ら。中。に。む

心はさう一ツあり。その御更よ及まて聽^きくは
 若^もく木乃^もねよまう^うが落^ちて死^にまきり。糸^{いと}の緒^{いと}を
 ま^まの^の愁^{しみ}歎^{なげ}て皆^{みな}死^にけり。沙^さの是^{こゝ}を不^た便^{べん}り
 心^{こゝろ}の今^{いま}既^{すで}に^に等^とに^に後^{のち}らる^るり人の功^{いさ}徳^{とく}よまう^う高^{たか}
 生^{なま}類^{るい}と^と情^{なさけ}づて。忽^{たちまち}佛^{ぶつ}果^{ぐわ}乃^の縁^{えん}と^と同^{おな}ま^ま代^{だい}ゆ^ゆへ^へと
 廻^{まわ}向^{むか}ふ^ふ多^{おほ}し^しの^の身^み存^{ぞん}天^{てん}衣^い微^ゐ妙^{めう}の^の袈^か衣^い束^{そく}着^{ちやく}
 ころ。人^{ひと}の^の心^{こゝろ}を^を白^{しろ}玉^{ぎよく}と^と情^{なさけ}づ^づは^は捧^{たも}礼^{らい}
 てい^いも。神^{かみ}の^の後^{のち}らる^るり人^{ひと}の^の功^{いさ}徳^{とく}よまう^う後^{のち}
 形^{かたち}と^と情^{なさけ}づて。天^{てん}上^{じやう}よま^まし^しの^の心^{こゝろ}を^を白^{しろ}玉^{ぎよく}と^と情^{なさけ}づ^づは^は捧^{たも}礼^{らい}
 玉^{たま}か^かの^の心^{こゝろ}を^を白^{しろ}玉^{ぎよく}と^と情^{なさけ}づ^づは^は捧^{たも}礼^{らい}
 ろ^ろこ^こ帝^{てい}代^{だい}の^の心^{こゝろ}を^を白^{しろ}玉^{ぎよく}と^と情^{なさけ}づ^づは^は捧^{たも}礼^{らい}

元録三年印書井原西鶴著川田園み校定
 西鶴置土産書^下フス^上志^下志^上

